

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 東京都立三田高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
所在地 〒 108 - 0073 東京都港区三田 1 - 4 - 46
E-mail ml-mita-kikoku@section.metro.tokyo.jp
Website http://www.mita-h.metro.tokyo.jp/site/zen/
幼児児童生徒数 男子 467 名 女子 448 名 合計 915 名
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は以下の 4 点を平成 29 年度国際理解教育 (ユネスコ活動) 目標と定めた (1) 国際理解教育を推進するとともにわが国の伝統・文化に対する理解を促し、真の国際的教養を備えたリーダー、開拓者を育成する。

(2) 多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ生徒を育成する。

(3) 人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかける。

(4) 21 世紀の学習の 4 本柱「知ることを学ぶ、為すことを学ぶ、人間として生きることを学ぶ、共に生きることを学ぶ」を教育の好事例へと実現化させる活動を行う。

ユネスコ憲章に基づき、「心に平和の砦を築く」ために国際理解教育を通して地球市民としての意識や多文化共生・人権・平和に寄与する人材を育成するため、①国際交流 ②貧困・難民支援 ③各種講演会 ④専門機関訪問 を実施している。特に今年度は、ユネスコ委員会生徒を中心に「難民」を一年間のテーマとして活動した。

内容については下記の通りである。

◆国際貢献◆

- 4/28 地球のステージ 桑山紀彦氏の講演及び座談会 1学年 320名参加
6/13・6/19 港ユネスコの訪問 ユネスコ委員会 36名
7/10 JICA 地球の広場 訪問 ユネスコ委員会 36名
7/12 UNHCR 協会 訪問 ユネスコ委員会 36名
8/5 ~ 8/12 ユネスコ・カンボジアスタディーツアー 1名参加
9/10・9/11 白珠祭(文化祭) ユネスコバザー開催と寄付
UNHCR 協会 ラオス子ども図書館 ユネスコ協会連盟 支援
ミンダナオ子ども図書館へ物資輸送
1/9~1/31 世界寺子屋運動支援
世界寺子屋運動リーフレットコンテスト参加
書き損じはがき回収 1・2学年 640名参加
2/20 日本ユネスコ協会連盟本部訪問
アフガニスタン寺子屋職員と交流 代表生徒3名
3/12 ハンガリー大使館訪問 21名参加

◆国際交流及び講演会◆

- 4/22 台湾大同高級中学来校 30名 レセプション2学年 320名参加
4/28 留学生が先生 国際理解支援協会主催 8名を40名8クラスに招待
6/7 シンガポール・Pioneer Junior College 訪問 生徒30名来校
6/15 La Serna High School ラ・セルナ公立高校
(アメリカ・カリフォルニア州) 生徒18名、引率教諭2名
6/24 2年留学生が先生 オール台湾プログラム
台湾留学生8名を40名8クラスに招待
7/19 2年生国際理解講演会 「台湾修学旅行事前研修」
講師 日本台湾教育センター顧問 林 敬三 氏
主題 「台湾ー日本の永遠の親友」
11/2 Lomsakwittayakhom School タイ 教員20名 学生12名来校
11/13 青少年交流事業「JENESYS2.0」
及び対日理解促進交流プログラム「JENESYS2017」外務省後援 30名来校
3/19 2学年国際理解シンポジウム
テンプル大学よりフィンランド・シンガポール・イタリア留学生招待
英語によるパネルディスカッション開催
写真↓ユネスコバザー ↓アフガニスタン大使館



募金活動の様子



支援物資の受付



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 学校文化祭)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ミンダナオの風（ミンダナオ子ども図書館広報） 日本ユネスコ協会連盟 世界寺子屋運動を啓発する諸資料 プラン・インターナショナル・ジャパン HP 関連資料 UNHCR HP JICA 地球ステージ その他
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校ではユネスコスクール活動のリーダーとして各クラスに2名のユネスコ委員が選出されている。各クラスの2名を中心として、東京都教育委員会独自教科の「人間と社会」において「国際貢献体験活動」を行っており、全校体制で支援物資の回収、仕分け、さらに国際郵送料の調達方法として文化祭においてバザーを実施し、その収益金から拠出している。また、冬には書き損じ回収運動を全校体制（3年生を除く）で実施しており、世界寺子屋運動を支援するため、各クラスで委員がリーフレットを作成し、全校生徒に対して世界の識字率や改善の手立てを啓発し、寄与する活動を実施している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校全体で組織的かつ継続的に取り組むために、半世紀以上の伝統を誇るユネスコスクール活動を牽引する校務分掌として国際教育部が発足している。啓発・学習を担当するユネスコ委員会、海外からの訪問者を歓迎し、各種講演会等を運営する国際理解委員が各クラスで計4名選出されることにより、偏り・滞りなく全校体制での活動を維持している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部については年次一度の生徒・保護者・教員アンケートを実施し、アンケートの質問内容や結果は、年次三度外部有識者を招いて開かれる学校運営連絡協議会で審議、検討、振り返りがなされている。また、活動内容について逐次学校HPにアップすることで、外部に対して取り組みを発信し、ユネスコ協会連盟をはじめとして、大使館、国際NGO、大学等との信頼関係の醸成、連携強化に生かしている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

主に HP での掲載、生徒たちによるポスター報告や、学校説明会・外部機関訪問の際のプレゼンテーションなどにより発信している。報告を通じて校内の生徒・教員に対して活動に対する認知が広がっているだけでなく、啓発によりユネスコスクールの取り組みに対する意識が高まっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

港ユネスコ協会・関東地域のユネスコスクール・日本ユネスコ協会連盟、UNHCE 協会・周辺大使館・国際理解支援協会・その他個人。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

2017年3月に関東地域のユネスコスクールと連携して代々木オリンピックセンターにて報告会・交流会を実施した。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコス쿨の活動によって、学校外からの教育的働きかけが増加し、生徒の視野を広げ高い志を醸成するきっかけが多様化している。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

現時点では未定であるが、平成 29 年度と同程度の規模で、準じた活動を継続する予定である。特にユネスコス쿨活動については、新年度新たに立候補した委員会生徒を中心に、主体的で対話的な活動の中で組み立てていくことを重視しており、年間活動テーマを決定するまでに1か月あまりの期間を設けている。その間、現在の世界情勢・支援が必要な分野や背景について調べ学習を全員で行い、テーマを提案・審議を経て具体化していく過程を大切にすることで、生徒が自ら責任を負い、一年間をかけて取り組みに対して達成感を得られるよう指導上留意している。